

■米国：オバマ大統領がキーストーンXLパイプラインの建設計画を却下

オバマ大統領は2015年11月6日、トランス・カナダ社が申請していたキーストーンXLパイプラインの建設計画を承認しないと発表した。同プロジェクトは、カナダ・アルバータ州のオイルサンドから抽出した重質油を米国内に輸送するパイプラインを建設するもの。パイプラインの一部が国境を越えるため、建設には大統領の許可が必要となる。政情の安定しているカナダからの原油輸入量を増加させることは、エネルギーセキュリティの強化、国内の製油所の操業拡大など、米国にも多くの便益をもたらすとされているが、重質油は従来型の原油に比べて温室効果ガス排出量が多く、また、ルート上の湿原地帯への影響などを懸念する声も多く、2008年に最初の計画が提案されて以降、計画推進派と環境保護派の間で主要な論点となっていた。気候変動対策で政治的功績を残したいとされるオバマ大統領は、今回の決定によって、12月のCOP21を前に明確なメッセージを国内外に発信したことになる。